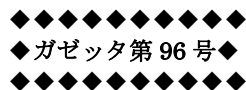


# メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(20)

第 96 号～第 100 号 (2015 年 4 月 15 日～5 月 25 日配信)

配信した「ガゼッタ」No.96-100 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。



ガゼッタ第 96 号をお届けします。

本号は、「期間限定でカルビーのポテトチップス “ロッシーニ味” 発売!」、「ゼツダ先生に大阪音楽大学特別名誉教授の称号贈呈!」、「高崎保男・著『ヴェルディ全オペラ解説』完結!」、「新譜:2013 年 ROF 《ギョーム・テル》DVD&BD 発売!」、「2015 年ペーザロ&ザルツブルク音楽祭ツアーのご案内」をお届けします。

なお、今年 ROF のベルカント・コンサート (8 月 21 日) の出演者がフロリアン・サンペイからニコラ・アライモに変更されています。一般申し込みは 4 月 27 日開始なのでお忘れなく!

4 月 26 日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

## ▼期間限定でカルビーのポテトチップス “ロッシーニ味” 発売!▼

今月 4 日、特別会員 T さんから「こんなポテトチップスが発売されたのをご存知ですか?」と、ご連絡いただきました。な、なんと、カルビーから「ポテトチップス俺のフレンチ・イタリアン、牛肉とフォアグラのロッシーニ味」が発売されたではありませんか! カルビーのサイトによれば 3 月 23 日発売開始、5 月上旬に販売終了予定とのこと。コンビニ限定なのに探してもなかなか見つからず、6 軒目でゲット! 宣伝文句は「『牛肉とフォアグラのロッシーニ』の味わいを再現したポテトチップス」。「ロッシーニ風」ではなく「ロッシーニ味」と書かれていてビックリ。ロッシーニって食べ物だったのか! (笑)

インパクトのあるロッシーニ風フィレステーキの写真が袋にあり、食欲をそそられます。一袋 100 グラムで 555kcal (キロカロリー)、価格はオープン。筆者は税込 204 円で購入しました。すでに食しましたが、なかなかいい出来だと思えますのでお勧めします。

カルビーの商品情報ははこちら→ <http://www.calbee.co.jp/shohinkensaku/product/?p=20150313114321>

## ▼ゼツダ先生に大阪音楽大学特別名誉教授の称号贈呈!▼

4 月 4 日、大阪国際フェスティバル《ランスへの旅》を指揮するゼツダ先生が奥様クリスティーナさんと共に無事来日。9 日には大阪音楽大学の特別名誉教授の称号が授与されました。おめでとうございます!

18 日 (土) の本番間近とあって、大阪国際フェスティバルの公式ブログにさまざまな記事が追いつみでアップされています。11 日にはこれまで朝日新聞に掲載されたゼツダ先生と《ランスへの旅》に関する三つの記事が PDF でアップされ、出演者の紹介も続いています。デリア役を歌う高嶋優羽さんに関する記事には、デリアがなぜ「コリンナに保護されるギリシアの孤児」なのかを説明した筆者の短い文章も掲載されました。

たった 1 回の公演に、これだけたくさんの記事が載るブログも珍しいです。見るのは今のうちかも知れませんが、是非ご覧ください。私も大阪に観に行きますので、当日現地でお目にかかりましょう!

ゼツダ先生の大阪音楽大学特別名誉教授の称号授与に関する記事はこちら↓

<http://blog.osakafes.jp/archives/1370>

朝日新聞掲載のゼツダ先生と《ランスへの旅》に関する三つの記事はこちら↓

<http://blog.osakafes.jp/archives/1436>

デリア役の高嶋優羽さんに関する記事はこちら↓

<http://blog.osakafes.jp/archives/1509>

## ▼高崎保男・著『ヴェルディ全オペラ解説』完結!▼

日本ロッシーニ協会の初代会長でもある高崎保男先生の著書『ヴェルディ全オペラ解説 3: 「シチリアの晩鐘」から「ファルスタッフ」まで』が上梓されました (音楽之友社、A5 版 368 頁、定価 4,536 円 [本体 4,200 円])。《シチリアの晩鐘》《シモン・ボッカネグラ》《アロルド》《仮面舞踏会》《運命の力》《ドン・カルロス》《アイーダ》《オテッロ》《ファルスタッフ》の作品解説が載っています。

日本語で書かれた最も詳しいヴェルディ全オペラ解説の完結とあって、オペラ・ファンに歓迎されることでしょう。おめでとうございます!

音楽之友社サイトの内容紹介と目次はこちら↓

<http://www.ongakunotomo.co.jp/catalog/detail.php?code=130330>



### ▼新譜：2013年 ROF 《ギョーム・テル》 DVD&BD 発売！▼

◎ロッシェニ：《ギョーム・テル》2013年8月ロッシェニ・オペラ・フェスティヴァル上演映像 Decca 0743871[BD], 0743870 [DVD2枚組]  
演出：グレアム・ヴィック、指揮：ミケーレ・マリオッティ、ボローニャ歌劇場管弦楽団、同合唱団 アルノール：フアン・ディエゴ・フローレス、マティルデ：マリーナ・レベカ、ギョーム・テル：ニコラ・アライモ、ジェミ：アマンダ・フォーサイスほか



クラシカジパンで日本語字幕入り放送されたのにDVDとBDに日本語字幕が無い…韓国語はあるのに！…というのは大問題ですが、不幸なことにDecca盤はそれが普通になっています。

それはともあれ、BDを購入して感動を新たにしました。刺激的なヴィック演出にもあらためて感心しましたが、見る人ごとに好き嫌いの分かれる舞台である点に変わりはありません。筆者の感想は現地からの速報としてメルマガ第36号と第37号に書きましたので、そちらをご覧ください（下記）。約17分のメイキング映像も収録されており、演出家ヴィック、ROF総裁マリオッティ、ゼツダ先生、歌手たちと指揮者のコメントを通じて理解を深めることができます。

メールマガジン「ガゼッタ」第36号から第40号のまとめ(pdf版)はこちら↓

<http://societarossiniana.jp/gazzetta36-40.pdf>

### ▼2015年ペーザロ&ザルツブルク音楽祭ツアーのご案内！▼

「ペーザロのROFの素晴らしさは行かないと判らない」と言う不謹慎かもしれませんが、25年前の1989年から通う筆者は折に触れ、そう断言してきました。毎回行く人は自分でチケットも宿も取れますが、初心者に敷居が高いのも事実。初めて行かれる方にお勧めなのが、ROFを含むオペラ・ツアーです。

昨年は実施しませんでした、筆者が講師同行するツアーを数年前から行っており、今年はザルツブルク音楽祭と組み合わせて実施します。バルトリ主演《タウリスのイフィジューニア》も観られます！

「ペーザロ・ロッシェニ音楽祭&ザルツブルク音楽祭9日間」のパンフレットができましたので、ご覧ください。すごく楽しいツアーですから是非一緒しましょう！

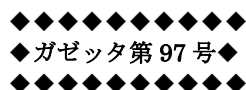
ペーザロ&ザルツブルク音楽祭ツアーのパンフレットPDF版はこちら↓

[http://www.ytk.co.jp/music/0817\\_2015\\_mizutani/pageview/pageview.html#page\\_num=1](http://www.ytk.co.jp/music/0817_2015_mizutani/pageview/pageview.html#page_num=1)

郵船トラベルのご案内はこちら→ [http://www.ytk.co.jp/music/kaigai\\_opera\\_classic/tour/schedule/3426](http://www.ytk.co.jp/music/kaigai_opera_classic/tour/schedule/3426)

本日はこれにて失礼いたします。

(2015年4月15日 水谷彰良)



### ◆ガゼッタ第97号◆

ガゼッタ第97号をお届けします。

本号は、「大阪国際フェスティバル《ランスへの旅》無事終了!」、「ヴィーン国立歌劇場《アルジェのイタリア女》にカマレナの代役でフローレス出演!」、「ロッシェニ作品を含む室内楽演奏会(6月24日)のご案内」、「ポテトチップス(ロッシェニ味)のアレンジ・レシピ」をお届けします。

なお、協会ホームページの「ロッシェニについて」のメニューの中に「[ロッシェニ音楽祭関連](#)」を設け、2014年のロッシェニ音楽祭(1)ザルツブルク聖霊降臨祭(水谷彰良)、(2)ヴィルトバートのロッシェニ音楽祭(井内美香)、(3)ロッシェニ・オペラ・フェスティヴァル(水谷彰良)を掲載しました(4月15日アップ)。

併せて「[オペラ以外のロッシェニ作品解説](#)」の頁の「ロッシェニの器楽・管弦楽曲 作品解説」に、その(16)～(20)を掲載しました(4月24日アップ)。

明日(4月26日)の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

### ▼大阪国際フェスティバル《ランスへの旅》無事終了！▼

去る4月18日、大阪で《ランスへの旅》を観てきました。フェスティバルホール初体験の筆者は、その大きさとバブリーな雰囲気圧迫されました。ゼツダ先生の元気なお姿にも一安心。若い歌手たちがみな健闘し、ペーザロの若者公演の水準で一定の成功を収めたと思います。個々の歌手にバラつきがあっても当然。管弦楽もROFの二軍オケ(G.ロッシェニ交響楽団)と同等でした…って褒めたことになりませんね。

演出と舞台にはいささかがっかり。コンサートホールの広い会場に比して舞台がせせこましく、あまりに窮屈です。7月の日生劇場上演のために作った舞台のまま想像しますが、それではフェスティバルホールの規模と空間を無視したことになります。フェスティバルホールの器を前提に舞台を構築し、その後に日生劇場に合わせてアレンジするのが筋でしょう。

フィナーレでは狭い空間に人がひしめき、助演が各国の国旗を垂れたまま持って現れます。それではシンボルとして国旗を示したことにならず、掲げることにもならない。ともあれ旗を出せば、との発想は安直です。他にもいろいろありますが、日生劇場を楽しみにしている人も多いと思うのでやめておきます。ゼツダ先生、7月の《ランスへの旅》も元気に指揮してください！

本番後のゼツダ先生の写真はこちら（変顔の筆者をカットして事務局長とのツーショット）→



▼ウィーン国立歌劇場《アルジェのイタリア女》にカマレナの代役でフローレス出演！▼

今月 18 日の夜、ウィーン国立歌劇場で《アルジェのイタリア女》を観劇した知人から、「何と！カマレナからフローレスに変更になり、知ったのが開演ギリギリだったので余計にテンション上がりました」とメールが来てビックリ。指揮はロペス=コボス、演出は旧ポネル。イザベッラ：アンナ・ボニタティブス、リンドーロ：ハビエル・カマレナ、ムスタファ：イルダル・アブドラザコフのキャストで 18 日が公演初日でした。

カマレナの降板理由は不明ですが、なんでフローレスが？と驚いて調べたら、26 日の《ドン・パスクワレ》初日（イリーナ・ブルック新演出）を前にウィーンに居たのですね。指揮も同じロペス=コボス。旧ポネル演出の舞台ならどうにでもなる…ではなく、困ったときはお互いさま、と一肌脱いだのでしょう。

昨年 7 月スカラ座にフローレスの《オリー伯爵》を見に行き、降板でコリン・リーのオリーを見てきた不運な友人が何人かいますが、今回は正反対。でも残り 3 回（23、27、30 日）はエドガルド・ロチャが代役を務めます。だから初日に行った人だけの「ラッキー！」でした。

▼ロッシェニ作品を含む室内楽演奏会（6月24日）のご案内▼

浦安市在住のピアニスト、高田有莉子さんとコントラバス奏者（都響）高橋洋太さんが出演する室内楽コンサートのお知らせです。曲目の半分がロッシェニ作品で、チェロとコントラバスのための二重奏曲と弦楽のためのソナタ第 2 番が演奏されます。

日時：2015 年 6 月 24 日（水）19:00 開演（18:30 開場）  
 場所：JT アートホール アフィニス  
 出演：ヴァイオリン／田代裕貴、ヴィオラ／大島 亮、チェロ／マルモ・ササキ、コントラバス／高橋洋太、ピアノ／高田有莉子  
 曲目：モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ト長調 K.423  
 ロッシェニ：チェロとコントラバスのための二重奏曲 ニ長調  
 ロッシェニ：弦楽のためのソナタ第 2 番 イ長調  
 シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調 《鱒》

都響のサイトの紹介とチラシ PDF 版はこちら↓

[https://www.tmsu.or.jp/j/concert\\_ticket/detail/detail.php?id=2908&year=2015&month=6](https://www.tmsu.or.jp/j/concert_ticket/detail/detail.php?id=2908&year=2015&month=6)

▼ポテトチップス（ロッシェニ味）のアレンジ・レシピ▼

メルマガ前号で紹介したカルビーのポテトチップス「ロッシェニ味」、何人もの読者から「見つけました、美味しかったです。ありがとうございます！」と御礼を言われました。ふだん何の反響もないので、「読んでる人いたんだ〜」と再認識。大阪にも持参し、《ランスへの旅》を終えたゼツダ先生に進呈しておきました（笑）。

話のついでに筆者のアレンジ・レシピを紹介します…題して「インサラータ・ロッシェニポテチ味」。材料は、ルーコラ、トレビス、レタスなどの葉っぱと赤パプリカの薄切り。我が家のドレッシングは塩コショウしてイタリアのヴァージン・オイルと Ponti 社の白バルサミコ酢「Dolce Agro ドルチェ・アグロ」（東急ストアなどで買えます）を適量です。生野菜をドレッシングであえたら、仕上げにポテトチップス「ロッシェニ味」をふりかける……ただそれだけ。









直近の出演は7月16日ヴィルトバートのリサイタル、続いて10月にバルセロナのリセウ大劇場《ナブッコ》にフェネーナで出演し、《ゼルミーラ》演奏会形式のエンマを10月8&10日にリヨン歌劇場、11月14日にパリのシャンゼリゼ劇場で歌います（共演は、チョーフィ、シラグーザ、ペルトウージ）。来年は5月トゥールーズのキャピトル歌劇場《アルジェのイタリア女》にも出演し、ロッシェニ歌手としての活躍が続きます。

詳細はピッツォラートの公式サイトをご覧ください→ <http://www.mariannapizzolato.it/>

#### ▼ROF会期中のウルバニア日帰りバスツアーのご案内▼

ROF友の会の会員には、ROF会期中の8月13、16、20日にイサツアー（Esatour）が行うウルバニア日帰りバスツアーに関するメールが届いていることと思います。ウルバニア（Urbania）はペーザロから約40キロに位置する住民約7000人の小都です。

観光地でないため筆者はまだ訪れたことがありませんが、最後の偉大なカストラート、ジローラモ・クレシェンティーニの出身地として認知していました。ちなみにこのウルバニアには15世紀の建築家・画家ドナート・ブラマンテ（Donato Bramante, 1744-1514）の名前を冠したブラマンテ劇場（Teatro Bramante）があり、現在の建物は旧劇場（1725年開場）から建て替えられて1864年に《イル・トロヴァトーレ》で開場しました。3層44のバルコをもつ350席の小さな劇場で、1984年末に閉鎖されて修復工事が始まり、2001年5月に再開場しています。

ブラマンテ劇場に関する簡単な説明はこちら（イタリア語）↓

<http://www.provincia.pu.it/cultura/teatri-storici/teatro-bramante-urbania/>

このツアーは朝9時を目途にペーザロのホテル街を出発し、ブラマンテ劇場の見学、クレシェンティーニとロッシェニ作品による小コンサート（ソプラノとハープ）、昼食、陶芸工房の見学その他が含まれ、午後4時頃ペーザロに戻ります。価格は一人120ユーロ。筆者は20日のツアーに申し込もうかと思案中です。各日50人限定のツアーにつき早めに申し込まないと難しいかな、とも思いますが、ともあれ8月13、16、20日にペーザロにいる方にお薦めです。ベルカント・リサイタルとかぶる日もありますのでご注意ください。

ウルバニア日帰りバスツアーのパンフレット（イタリア語）はこちら↓

<http://societarossiniana.jp/URBANIA2015.pdf>

#### ▼ガゼッタ第100号を迎えて▼

今回、日本ロッシェニ協会メールマガジン「ガゼッタ」が100号を迎えました。月3回の配信ですから34か月に100号に達するのは当然の話で、とくに達成感もありません。HPの管理人さん（運営委員にもなっていた音喜多さん）に毎回ご苦労をかけての配信で、フェイスブックは音喜多さんにお任せしています。

ここ1か月、協会ホームページの更新（新規原稿のアップ）がされていないのも筆者に責任があり、今月は2週間以上『イタリア・オペラ史』（音楽之友社）のゲラ校正に時間と労力を注ぎました。初版は2006年ですが、その後「大幅に増補改訂したいので品切れ絶版にしてくれ」と求めた経緯があり、昨年再出版の許可が下りて増補改訂を施しました。これは文章の全面的見直しだけでなく、過去10年間の蘇演と新作初演の情報を盛り込み、本文の頁数も30頁増えました。人名・作品名の表記も改め、原題付きで記したオペラの題名が約810から約1020に増えたため、年表と索引の作り変えも必要でした。8月末か9月初めに新刊として世に出ますので、お読みいただければ幸いです。

そんなわけで執筆中の『ロッシェニ伝』の完成も遅れています。膨大な資料に基づくことから今年中の脱稿は絶望的。とはいえ新発見のロッシェニ書簡と最新研究に基づく世界でも例のないロッシェニ伝となりますので、いましばらくお待ちください。これとは別に、《セビーリャの理髪師》に特化した書籍も準備中です。

メルマガも協会HPも個人の仕事や研究の間をぬってのボランティアとはいえ、HPは世界に向けた発信でもありますので随時増補改訂を重ね、精度の高い完成版に置き換えていかねばなりません。これも一朝一夕にはなせず、ベルカントの理論や歴史的音楽教本に関する研究と共に今後の課題とさせていただきます。

2012年9月に始まった日本ロッシェニ協会とHPのリニューアル、その最初の節目をこのメルマガ第100号と位置づけて精進しますので、今後ともお付き合いいただきますようこの場を借りてお願い致します。

（2015年5月25日 水谷彰良）